

身近な材料を使って遊ぼう

これまでの経緯・子どもの姿

画用紙や折り紙、ビニールテープ、PPテープなどの材料の他に、空き箱やペーパー芯、プリンカップなどのさまざまな身近な材料を用意し、好きな遊びの時間に使えるようにしている。製作することが好きな子どもが多く、自分なりにイメージしたものをつくったり、箱の大きさや形から何が出来るかを考えてつくったりするなど、思い思いの遊び方をしている。お菓子やカチューシャなど身につけるものなど、イメージを共有しながらつくったものを使ってごっこ遊びを楽しんでいる。子どもたちは、つくったものを飾る、家に持ち帰るなど、自分で決めている。

育てたい力

- 友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。(A②-①)
- さまざまな材料や用具などを使い、自分なりに工夫したり、友達とイメージを共有し協力したりしながらつくることを楽しむ。

児童期を見通した工夫

- 自分なりの目的をもって取り組んでいる姿を認め、自信や意欲がもてるようにする。(B①-①)
- 見立てる、イメージを膨らませる遊びを楽しめるようにしたり、その思いに共感したりする。(B①-⑥)
- 遊びの中でつくりたくなるようないろいろな素材を用意したり、見本をおいたりして意欲をもってつくれるようにする。
(種類別に分けたり並べたりして、使いやすいよう、片付けやすいよう準備しておく。)(C①-②)
- 活動を振り返り、互いの思いや気持ち、考えを知り、共有や共感ができる場や時間をもつ。(C②-⑤)
- ごっこ遊びでは、何が必要かを子どもたちと一緒に考え、さらに遊びが発展するよう材料などを準備する。

活動の様子

●遊びや活動 *様子	●保育者の関わり *気づき	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (10の姿)と教科とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ●好きな遊びの時間に、製作をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・空き箱やペーパー芯、プリンカップなどをいろいろな形に組み合わせて好きなものをつくる。 ・のりやボンド、はさみ、油性ペンなどいろいろな用具を使う。 ・ほしい材料が見当たらない時は、保育者に伝える。 ・友達につくり方を聞いたり、伝えたりする。 *イメージしたものを自分なりに工夫しながら形にしていく姿がある。 ●できあがったものを使って遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・コンサートごっこ ・お店屋さんごっこ ・ゲーム など ●さらに必要なものを考え、継続して遊ぶ。 *子どもがさらに何が必要かを考え、それらをつくることで継続して遊ぶことを楽しむ姿がある。 ●振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●材料を種類別に分けたり、取り出しやすいように置いたりすることで、子どもがいつでもつくり始められるように準備しておく。 ●用具や材料の名称が会話の中で自然に分かるようにする。 ●子どもが保育者に説明する言葉に耳を傾け、工夫したところやおすすめポイントなどを聞く。また、必要に応じて周りの子どもたちに知らせるようにする。 ●子ども同士で教え合っている姿などを認める。 *振り返りの時間などを通して、今の遊びがさらに発展するためにはどうしたらいいかを一緒に考え、必要なものをすぐに準備することで、継続して遊びを楽しむことができています。 	社会生活との関わり 豊かな感性と表現 思考力の芽生え 協同性 言葉による伝え合い 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 【教科等とのつながり】 「生活」「国語」「図工」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

身近な材料のさまざまな形や大きさ、用具に触れ、自分なりのイメージを表現します。自ら材料を選び組み合わせたり見立てたりしながら、つくることを楽しむ中で、用具の扱い方を知り、物の性質や形の特徴を捉えていきます。その過程の中で、試し、考え、工夫しながら継続して遊び、満足感を味わいます。また、友達と言葉で思いを伝え合い、イメージを共有して遊ぶ中で、協力する楽しさを感じていきます。

積み木遊び

これまでの経緯・子どもの姿

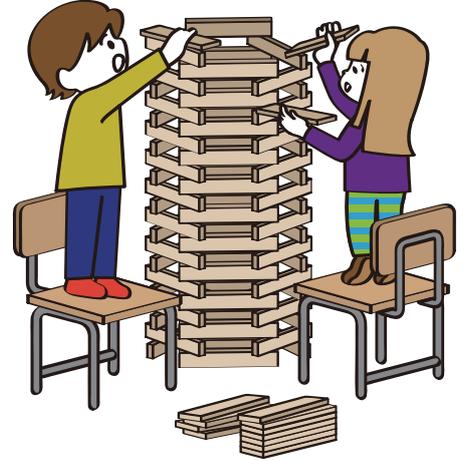
ブロックなどを使い、つくりたいものをイメージし、つくり方の本を見ながら組み立てることを楽しんでいる。積み木遊びでは、初めは並べたり高く積み上げようとしていた。レンガ積みの方法を知らせると、より高く積み上げることができるとわかり、友達と3~5人で始めるようになった。勢いよく積むことで、積み木が倒れることを何度か経験し、手指の動きを調整しながら積むようになる。自分たちの背と同じ高さに積めると、友達と喜び合っている。

育てたい力

- 友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。(A②-①)
- 自分で考えたりイメージしたことを表現し、友達と共有しながら遊びを進めることを楽しむ。

児童期を見通した工夫

- 子どもが工夫してつったり、かいたりする姿や豊かな発想を認め、共感していく。(B②-②)
- 好きなことに集中したり、没頭できる時間を保障しつつ集団で活動したり、話を聞く場面を取り入れたりしていく。(B②-③)
- 劇遊びなど協同的な活動を通して、共通の目的の実現に向けて試行錯誤や工夫、さまざまな気づきが生まれるようにする。また、友達とイメージを共有し、見通しをもって取り組むことを通して、やり遂げた喜びと満足感が味わえるようにする。(C②-①)



活動の様子

●遊びや活動 *様子	●保育者の関わり *気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 (10の姿)と教科とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ●友達3~4人で積み木で遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりがつくりたい形や物を伝え、<u>友達と相談して決める。</u> ●積み木の塔(円柱)をつくる。 <ul style="list-style-type: none"> ・円になるように座る。 ・個々に積み木を並べながら、円の大きさを決める。 *手指や腕の動きを調整し、積み上げていく積み木や友達と距離をとりながら遊ぶ姿がある。 *自分が積み上げる範囲が自然と決まり積み木を積み上げる姿がある。 *手が届かない高さになると、椅子に乗って積む。 *高く積めたことを保育者や他児に知らせる姿がある。 *塔の高さを、自分や保育者の背の高さと比べる。 *完成した塔は、置いておきたいと伝える姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●積み上げることが続けられ、製作途中でも維持できる場所に積み木コーナーを設定する。 ●子ども同士のやり取りや、友達の考えに共感し、共通の目的に気持ちが向かっていることに対し、<u>言葉で共感したり、励ましたりしていく。</u> ●今までの経験から、積み上げるために、<u>工夫すること(そと積む、塔と距離を保つなど)を自ら行い、高く積み上げる楽しさを感じている姿を見守る。</u> ●出来上がった時の喜びを、共感する。 *友達の意見やアイデアを受け入れる姿がある。 ●クラス全体の場で、塔を仕上げる時の工夫を子どもたちに聞き、<u>つくる過程の中で工夫する姿を認めていく。</u> 	<p>協同性 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 健康な心と体</p> <p>数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 豊かな感性と表現</p> <p>【教科等とのつながり】 「生活」「道徳」「国語」「算数」「図工」</p>

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント



幼児期の子どもたちは、遊びを通して楽しみながら、大きさや高さなどを体感しています。友達と目的を共有しながら夢中になって遊ぶ中で、重ねる、組み合わせるなど考えたり試したりして工夫することを楽しみます。また、周囲の大人から、数え方やその言葉などを聞き、使うこともあります。また、周囲の大人から、数え方やその言葉などを聞き、使うこともありますが、まだ整理分類されているわけではありません。

〈算数〉かたちをつくらう

学習のねらい(教科)

- 立体図形に親しむ。箱などの身の回りの具体物の概念や特徴、機能を捉える。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 見立てる、イメージを膨らませる活動を取り入れたり、その思いに共感したり、他児に広げたりする。(B④-⑤)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 立体への関心を高める。 どんな活動をするか、話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 電車の写真を見せながら、<u>どんな材料でつくれそうか話し合い、電車を箱でつくる。</u> 箱やボールから連想したものを共有することにより、<u>つくりたいもののイメージを広げさせる。</u> 	思考力の芽生え 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
はんできょうりよくすると、はこでどんなものがつくれるかな。			
展開	<ul style="list-style-type: none"> 各グループでつくるものを決める。 乗り物や建物、動物など、各グループで決めたものをつくる。 班の作品を発表したり、他の班の作品を見たりして、感想を言い合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ものの形に着目し、<u>立体の概形からつくりたいもののイメージを広げさせる。</u> 準備しておいたいろいろな箱を観察したり、手に取ったり触ったりして、何をつくるかを決めさせる。 グループ活動では、<u>順番に積んでいくこと、形や大きさを比べつつ話し合いながら積んでいくことなど、ルールを明確にする。</u> 箱を横にしたり、積んだり、丸い形をタイヤに見立て回るようにしたりするなど、<u>形をよく見て工夫することに気付けるようにする。</u> 全体交流の後、各班の作品を観察し、工夫を探す。 	思考力の芽生え 豊かな感性と表現 協同性 道徳性・規範意識の芽生え
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時の活動をまとめる。 活動を通して気付いたことを発表する。 本時の感想を発表し、まとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> <u>転がる・転がらない、積める・積めないなど、形の特徴を捉えた児童の言葉を拾い、板書しておく、次時につなげる。</u> 	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に遊びの中で具体物を使い、物の形の特徴を捉え、見立てる、組み合わせるなどの経験は、数量や図形などについての基礎的・基本的な概念形成や、性質などの理解につながっています。また、友達とイメージを共有しながら心を動かし遊んだ経験があるため、班での活動で友達と対話的に活動することができます。

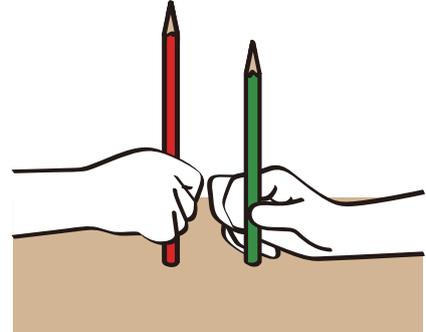
〈算数〉くらべたことがあるかな

学習のねらい(教科)

- ・幼児期に培った数や量への関心や感覚を想起して、算数の学習への期待をもつ。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 隣同士や班など少人数で話し合ったり発表したりする機会をもつ。(C4-1)
- 情報量を精選し、安心して集中して学ぶことができるよう環境を整える。(ユニバーサルデザインに配慮した環境、写真・絵・電子黒板などの視覚情報を適宜活用する)(C4-3)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	・教科書(P1)のはじめの単元の幼児期に経験した遊びの写真を見て、どのような場面かを話し合う。	・幼児期の経験をもとに写真の場面について話をさせる。また、「くらべっこ」をした経験を引き出す。	豊かな感性と表現
どちらがおおいか。			
展開	・自分の経験をもとに発表する。 ・教科書の場面以外にも、数を比べた経験を話し合う。(おはじき、ノートや本、はさくらべなど)	「ドングリ」→おおい・すくない 「積み木」→たかい・ひくい 「ジュース」→おおい・すくない ・算数用語として使うことを理解させる。 ・隣同士で話し合い、学級全体で交流する。	数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
まとめ	・具体物を使って、どちらが多いか 比べる 。 ・花の多さを比べる。 ・教科書の写真(量を比べる写真)を見て、どちらが多いか、 直感で答える 。	・黒板を使って、全員であることを共有する。 ・ぱっと見て「多い」「少ない」を判断させる。 ・算数用語を使って発表するように促す。 ・比べるものの大きさが違って、数の多少には関係がないことに気付かせる。 ・できたことを大いに褒めながら次時につなげる。	言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期の遊びや生活の中での「積む」「集める」「容器に入れる」などの経験を思い起こせるようにしたり、直感で答えられるようにしたりすることで、「多い」「少ない」「高い」「低い」など子ども体験による感覚を整理し、量感や用語の理解につなげることができます。また、クラス全員で共有することを通して、量の大きさの比べ方を考えるなど、数学的な見方、考え方につなげていくことができます。

1年生わくわく探検(交流)

これまでの経緯・子どもの姿

就学に必要なものを家庭で準備したこと、就学する小学校名など、学校に関することを、友達や保育者と話題にすることが多くなっている。また、小学校での過ごし方や、就学に向けての心情を表した絵本の読み聞かせをすると、興味をもって見ている。

育てたい力

○小学校生活を身近に感じ、就学への期待が高まる。(A②-③)

児童期を見通した工夫

- 就学への不安に寄り添いながら、一人ひとりの育ちやがんばりを認め、励まし、自信をもって就学を迎えられるようにする。(B②-④)
- 小学校見学をしたり、入学後の生活について話し合ったりして、入学を楽しみに待つ気持ちを育てる。(B②-⑤)



活動の様子

●遊びや活動 ＊様子

- 〈前日まで〉
- 小学校に行く日程や持ち物、活動内容について話を聞く。
 - ＊自分の就学する学校について話題にする姿が増えた。
- 〈当日〉
- ＊自分で持ち物を整えながら出発準備を進めようとしている姿がある。
 - 小学校に行く。
 - ＊校内に入ると、期待とともに緊張感が高まる子どももいる。
 - 1年生から、今日の活動の流れを聞く。
 - グループに分かれて、1年生の教室に入る。
 - 1年生が進行する学校ごっこに参加する。
 - ・朝の会
 - ・国語:運筆
 - ・算数:数字をなぞって書く
 - ・休憩:トイレに行く
 - ・生活:アサガオの育ち、種の話聞く
 - ・給食、掃除:やり方の話を聞く
 - ・終わりの会:振り返りをする
 - お礼のあいさつをする。

●保育者の関わり ＊気付き

- 小学校に行くことに期待をもてるよう事前に話をする。
- ＊小学校訪問を楽しみにし、期待感が高まっていると感じた。
- 子どもの様子に合わせて、さりげなく気持ちに寄り添ったり、次にすることを知らせたりして安心して参加できるようにする。
- 1年生が、やさしく接してくれることを受け入れている時は、子ども同士の様子が進められるように見守る。
- 振り返りの中で、子どもが感じたことを聞き、就学への期待につなげるようにする。

幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)と教科とのつながり

健康な心と体

自立心

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

社会生活との関わり

豊かな感性と表現

【教科等とのつながり】

「生活」「国語」「算数」「道徳」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

小学生との出会いを大切に、安心して参加できるようにすることで、小学校へ行くことへの期待が高まります。また、実際に学校を見てイメージをもてることは安心感につながります。

〈生活〉がっこうたんけん

学習のねらい(教科)

- ・学校の中を歩いて回り、どんな教室があるかを発見する。
- ・教室では、どんな勉強をしているのか誰がいるのか興味や関心をもたせる。
- ・班の友達と協力して、学校を回る。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、一人ひとりの姿をよく見つめながら、子どもたちができることや経験していることを生かした授業を行う。(C③-③)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の中を探検することを知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班で行動することを確認する。 ・<u>幼稚園、保育所と同じような教室があるか、ないかという視点をもたせる。</u> 	
しょうがっこうには どのようなへやがあるかな。			
展開	<ul style="list-style-type: none"> ・2階、3階、4階を順番に探検することを知らせる。 ・探検する階に着いたら、班ごとに教室を外から見る。 ・4階まで見たら教室に戻って、<u>どんな教室があったか発表する。</u> ・<u>見つけた教室は、誰がどんな勉強をするのかの説明を聞く。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・階段の上り下りに気を付ける。 ・他の学年の妨げにならないように探検するように促す。 ・どんな教室があったか、階ごとに集まって確認する。気付いていない班は、一緒に行ってみるようになる。 ・階ごとに分けて発表する場を設ける。 ・職員室や図書館、視聴覚室など1年生が使う教室は、必ず行くようにする。 ・2階は、2年生が説明してくれるので、3・4階の教室のみ説明する。 	<p>協同性 思考力の芽生え</p> <p>言葉による伝え合い</p>
まとめ		<ul style="list-style-type: none"> ・2階の教室は2年生が学校探検で教えてくれることを予告する。 	

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

探検する面白さや楽しさを感じながら、幼稚園や保育所と同じような教室や場所があることや、異なる教室や場所があることを知り、その発見を伝えたり、他学年と関わったりすることで小学校生活に対する安心感や意欲が高まります。また、幼稚園や保育所で自分たちでルールを考えたり、友達と協力したり、行動したりする経験している子どもたちは、入学当初であっても分かりやすく示された約束を守ったり、自分なりに考えて行動することができます。

アサガオのたねを植えよう

これまでの経緯・子どもの姿

4歳児の時にさまざまな栽培(菜園)活動を経験し、世話や観察をしていたタマネギを収穫したり、夏野菜やサツマイモの苗を植えたりした時には、感じたことや気付いたことを思い思いに言葉にする姿があった。園庭に咲いているシロツメクサなどを集めて花束や冠をつくるなど、身近にある植物に興味をもっている子どももいる。

育てたい力

- 身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。(A①-③)
- 観察して気付いたことを伝え合ったり、図鑑などを見て植物の生長を楽しむにしたりする。



児童期を見通した工夫

- 自然などとの関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切にし、自然の面白さや不思議さが感じられるようにする。(B①-②)
- 興味や関心に合わせて、見る絵本、読む絵本、調べる本などを用意し、子どもが自由に選び、手に取れるようにする。(C①-⑥)

活動の様子

●遊びや活動 *様子	●保育者の関わり *気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と教科とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ●紙芝居「あさがおアパート」を見る。 <ul style="list-style-type: none"> ・感想を言い合う。 *「自分たちもやってみよう」とつぶやく子どもがいる。 ●小学校の1年生からもらったアサガオの種について保育者から話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・1年生の取り組みを知る。 ・1年生の存在や小学校を身近に感じる。 ●種の観察をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・色、形、固さ、匂いなどに気付く。 ●一晩水につける。 <ul style="list-style-type: none"> ・種の変化に気付いたり考えたりしたことを伝える。 ・友達の話を知る。 ●プランターに種をまく。 *これからどうなるかを予想し、クラスみんなですべて育てることに期待をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●植物や生き物の目線でかかれた紙芝居を用いることで、それぞれに生命があることをイメージしやすいようにする。 ●アサガオの種や生長過程に興味をもてるようにする。 ●子どもたちのつぶやきに耳を傾け、やってみようという気持ちを引き出せるようにする。 *「何か気付いたことは言ってね」と投げかけることで、じっくり観察していた。 ●変化の様子に生命の不思議さや面白さを感じている姿に共感し、周りの子どもたちにも伝わっていきようにする。 ●自分たちで世話ができるように水やり当番などを決め、大切に育てる気持ちをもてるようにする。 	<p>自然との関わり・生命尊重 社会生活との関わり 思考力の芽生え 言葉による伝え合い</p> <p>【教科等とのつながり】 「国語」「生活」</p>

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりなどの工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

1年生から種をもらうことを通して、小学校を身近に感じています。また、種を植え育てることを通して、植物が種から育つ不思議さや面白さを感じています。大切に育てた経験が、小学校でのアサガオの生長を観察するといった、より深い学びにつながっていきます。

栽培活動

これまでの経緯・子どもの姿

花の苗を植えたり、野菜を栽培したり、毎年繰り返して経験してきた。咲いた花は摘んで花瓶に生けて飾っている。事前に、その苗や種がどうすれば育っていくのかを子どもたちが調べ、栽培する野菜や花の種類を決めている。野菜は実際に育て、自分たちで世話をする中で、収穫したら、どうやって食べようかと考え、収穫に期待を膨らませている。

育てたい力

- 身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。(A①-③)
- 友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。(A②-①)
- 当番活動を通して友達と協力し合うこと、順番を決めるなど話し合う中で自分の思いを伝える。

児童期を見通した工夫

- 自然などとの関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切に、自然の面白さや不思議さを感じられるようにする。(B①-②)
- 気付いたことを友達や大人に伝え、共感する中で発見する喜びを感じられるようにする。



活動の様子

●遊びや活動 *様子	●保育者の関わり *気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と教科とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ●米を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・種まきをし、苗を育てる。 ・育てた苗を植える。(田植え) ・育つ過程を見る。 ・稲刈り、脱穀をする。 ・食べる。 ●野菜を育てる。 <ul style="list-style-type: none"> ・種や苗を植える。 ・水やりなどをして育てる。 ・収穫し、味わう。 そのまま味わう。 調理(クッキング)をして味わう。 *栽培物の生長に気付き、収穫することや、収穫した野菜を食べることを楽しみにしていた。 *友達と協力し、世話をし、生長に気付く中で、自分たちの役割を果たそうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもたちが自分で育てた実感をもてるようにする。 ●水やりをする時の水はどれくらいが適量なのかや、なぜ、水やりが必要なのかを考え、全員で行うことから、当番活動へと移行していく。 ●植物の日々の変化などに対する子どもの発見を丁寧に聞き取り、発表の場を設けるなど、気付きをクラス全体に共有できるようにする。 ●毎日、同じ時間に当番活動をしたり、朝の会で当番の確認をしたり、当番活動が定着していくように工夫する。 *当番活動を行うことで、自分たちで責任をもって育てていこうとする姿につながっていた。 ●自分たちで育て、収穫した野菜や米を食べることで、食物を育てる大変さや、食べることの喜びやありがたさに気付くことを大切にする。 	健康な心と体 自然との関わり・生命尊重 自立心 【教科とのつながり】 「生活」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント



自分たちで育て、収穫し、食べるという経験は、植物の生長だけでなく、「食」への興味や関心にもつながります。また、自分たちで育てる経験は、自立心を育みます。幼児期には、この栽培活動のように一つの活動を通して、自然への関心を深めるだけでなく、楽しみながら当番活動を経験し、自分たちで責任をもって育てるなど、一体的に資質・能力を育てていきます。

虫の飼育、観察をしよう

これまでの経緯・子どもの姿

ある日、一人の子どもが園庭の草むら(ハーブ)で、小さくて黒い虫を見つけた。「この虫なんだろう?初めて見る虫!」と友達と図鑑で名前を調べる姿があった。園にある図鑑には載っておらず、「家のパソコンで調べる!」と家で保護者と調べることになった。次の日、インターネットで調べた虫の名前、食べ物などをクラスの友達同士で伝える姿があった。そして、クラスの子もたちもその虫に興味をもち、クラスで飼育することになった。



育てたい力

- 身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。(A①-③)
- 身近な動植物に興味をもって関わり、友達同士で捕まえたり、飼育したりして生命の大切さを感じる。

児童期を見通した工夫

- 自然などとの関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切に、自然の面白さや不思議さが感じられるようにする。(B①-②)
- 自然の中で遊ぶ機会をもつようにし、未知なものに触れて感動したり、不思議だなと思ったりするような心が動く体験や、自然物を使ったいろいろな遊びが体験できるようにする。(C①-④)
- 興味や関心に合わせて、見る絵本、読む絵本、調べる本などを用意し、子どもが自由に選び、手に取れるようにする。(C①-⑥)

活動の様子

●遊びや活動 *様子	●保育者の関わり *気付き	幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)と教科とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ●虫の世話や観察をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・飼育ケースの掃除や食べ物(エサ)を入れる。 ・疑問や気付いたこと、不思議に思ったことを伝え合う。 *虫メガネを使って観察する姿がある。 *エサは何がいいのかを友達と考える姿がある。 ●図鑑や掲示物で調べる。 <ul style="list-style-type: none"> ・分かったことなどを友達や保育者に伝える。 *虫のことについて、知り得たことや疑問を家で保護者に伝える姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●虫の入った飼育ケースを子どものすぐ見える場所に置いておく。 ●さまざまな種類の図鑑や掲示物、虫メガネを用意しておく。 ●観察する中で不思議に思ったことや気付きを友達と伝え合う姿を見守る。 ●子どもたちの疑問や不思議に思うことや驚きに共感し、子どもたちが、一つのことを探求する姿を見守り、必要なものを用意する。 ●調べたり、確かめ合ったりする中で分かったことをクラスの友達に広められるようにする。 *虫に興味をもっている姿を保護者に伝え、保護者も興味や関心をもつことで、子どもたちの探求心が高まっていった。 *図鑑やインターネットや身近な大人から情報を得る手段に触れる姿にもつながった。 	<p>自立心</p> <p>自然との関わり・生命尊重</p> <p>言葉による伝え合い</p> <p>社会生活との関わり</p> <p>【教科等とのつながり】 「生活」「国語」</p>

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

偶然の発見を喜び、興味や関心をもった時に「観察する」「調べる」「伝える」という活動につながる環境を設定することで、さらなる好奇心や探求心が高まり、「知りたい」という意欲につながります。幼児教育では、個々の子どもの興味や関心がどこにあるのか、心の動きを注意深く見守り、学びの芽生えを意識して必要な環境を整えていくことが大切です。

ツマグロヒョウモンの幼虫を飼育しよう

これまでの経緯・子どもの姿

日頃から虫に興味があり、園庭では季節ごとに姿を現す虫を見つけ、動く様子に興味をもち、観察している。ツマグロヒョウモンの幼虫を頻繁に見つけるようになると、パンジーの花にいないか探している。さなぎから蝶に成長することを図鑑や絵本から知ると、育ててみたい意欲が高まり、飼育するために必要なパンジーの花を用意し、さなぎが落ちないようにそっと見るなど成長を楽しみにしている。また、幼虫の様子を見ながら、気付いたことを保育者や友達に知らせ、発見したことを喜んでいる。

育てたい力

- 身の回りの不思議さに気付き、予想し、工夫しながら、興味や関心をもったものに集中して取り組む。(A①-③)
- 気付いたり知り得たことを喜んだり、友達と知らせ合うことで共通の目的をもって取り組む。

児童期を見通した工夫

- 自然などとの関わりの中で、子どもたちの気付きや発見を大切にし、自然の面白さや不思議さを感じられるようにする。(B①-②)
- 興味や関心に合わせて、見る絵本、読む絵本、調べる本などを用意し、子どもが自由に選び、手に取れるようにする。(C①-⑥)



活動の様子

●遊びや活動 *様子	●保育者の関わり *気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と教科とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ●園庭で遊ぶ中で、ツマグロヒョウモンの幼虫を見つける。 ・絵本や図鑑を見る。 ・絵本などで知り得たことから成長過程を予想する。 *知っていることが図鑑や絵本に載っていると自信をもって保育者や友達に話す姿がある。 ●飼育する方法を考え、準備する。 ●飼育ケースで幼虫を育てる。 ・パンジーの花を用意する。 ●幼虫を観察する。 ・パンジーの花を食べる様子などを見る。 ・幼虫のフンを掃除する。 ・絵本や図鑑で幼虫の成長過程、飼育で気を付けることを知る。 ・気付いたことや感じたことを表現したり、友達に言葉で伝えたりする。 ●さなぎから蝶に成長する様子を見る。 ●蝶を逃がす。 	<ul style="list-style-type: none"> ●「さらに知りたい」という意欲の高まりに合わせて、絵本や図鑑を用意する。 ●子どもの驚きや発見の喜びに共感し、必要な物を一緒に用意する。 ●成長過程を写真に撮って掲示することで、いつでもその過程を振り返られるようにする。 *さなぎから蝶への変化とともに成長過程をそばで見ること、驚きや喜びにつながり、友達との共感が高まった。 *幼虫を見つれたり、観察することで気付いたことは、「自分が発見した」という喜びになっている。 *他の蝶にも興味をもち、青虫や蝶の体の大きさや色の違いに気付くきっかけになった。 	<p>自然との関わり・生命尊重 道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>思考力の芽生え 言葉による伝え合い</p> <p>【教科等とのつながり】 「生活」「道徳」「国語」</p>

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

生き物の成長過程に興味や関心をもち、その面白さや不思議さを感じることは、生命を大切にしようとする気持ちを育むことにつながります。また、継続して生き物と関わる環境をつくることは、さらなる好奇心や探求心を高めていきます。

劇づくりをしよう

これまでの経緯・子どもの姿

日常からさまざまな絵本や物語に触れている。その中で、子どもたちが感じたことや気付いたことを言葉で伝え合い、ごっこ遊びを楽しんできた。劇遊びでは物語の世界で、登場人物の心情やお話の背景や、場面の理解を深めてきた。その中で、自分が感じたことを友達に伝え、思いを共有し、互いに認め合う経験を積み重ねてきた。

育てたい力

- 友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。(A②-①)

児童期を見通した工夫

- 子どもが工夫してついたり、かいたりする姿や豊かな発想を認め、共感していく。(B②-②)
- 劇遊びなど協同的な活動を通して、共通の目的の実現に向けて試行錯誤や工夫、さまざまな気づきが生まれるようにする。また、友達とイメージを共有し、見通しをもって取り組むことを通して、やり遂げた喜びと満足感が味わえるようにする。(C②-①)
- 活動の中で、意見や思いを伝え合い、聞いてもらえる経験を通して安心感をもって過ごせるようにする。



活動の様子

●遊びや活動 *様子	●保育者の関わり *気づき	幼児期の終わりまでに育てほしい姿 (10の姿)と教科とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ●劇の場面ごとにお話を考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・お話の内容が分かり、<u>自分の考えや気付いたことを伝える。</u> ・身振りで自分の感じたことを表現する。 ・友達の意見を聞く。 ・感じたことや気付いたことを言葉や体の動きで表現する。 ・お話の理解を深めていく。 ・友達と一緒に考える。 ・考えたことをやってみる。 *自分なりの表現を楽しむ姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ●身振りを通して、自分の感じたことを表現する姿を言葉で認める。 ●子どもたちが話そうとする姿に気づき、子どもから出た意見や気づきを子どもたちに伝えながらイメージを共有することを大切にしている。 *自分なりの表現を認めることを積み重ねることで、思ったことや感じたことを自由に表現していいんだと実感することにつながっていた。 	<p>言葉による伝え合い 豊かな感性と表現 協同性</p> <p>【教科等とのつながり】 「生活」「国語」</p>

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

共通のテーマをもとに、自分のイメージや感じたことを身振りや自分なりの言葉で表現し、それを友達と共有し合う経験は、さまざまな表現や言葉で自分の考えを伝えることにつながっていきます。

リレーをしよう

これまでの経緯・子どもの姿

日常での鬼ごっこなどの遊びから、走ることの楽しさを味わってきた。初めは鬼にタッチされることが悔しくて、タッチされるたびに泣いたり、友達と喧嘩になったりする姿もあった。繰り返し遊ぶ中で捕まらない方法を考えたり、捕まったら仲間が助けてくれるなど実感したりしながら楽しんできた。また、ルールを自分たちなりに変えて遊ぶことや、元のルールの中で「こうしたほうがよい」とよりよくするための意見を出す姿があった。その過程を経て、運動会ではリレーに取り組んだ。どうすれば勝てるのか考えるとともに、走る速さは一人ひとり違うことなど相手のことを理解しながら、チームをつくり、走る順番を子どもたちで話し合ったりした。

育てたい力

- 友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。(A②-①)
- リレーの楽しさを感じ、ルールの必要性を分かり守ろうとする。

児童期を見通した工夫

- 遊びの中で、それぞれが思いを伝え、自分たちで見通しをもちながら進めたり、解決していけるような機会をもったり、援助を心がけたりする。(B②-①)
- 活動を振り返り、互いの思いや気持ち、考えを知り、共有や共感ができる場や時間をもつ。(C②-⑤)
- 共通の目的をもって、仲間と力を合わせる。



活動の様子

● 遊びや活動 *様子	● 保育者の関わり *気付き	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)と教科とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ● リレーをする。 * 繰り返し遊ぶ中でルールが分かり、楽しむ姿がある。 * ルールの認識に相違が出て、ルールを守っていないと主張し合う姿がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 気付いたことを言葉にして伝える。 ・ 思いを伝える中で、相手に自分の思いをどのように伝えればよいか考える。 ・ 友達の話を聞き、自分の思いを伝え、一緒に考えようとする。 * 次はどうかと考え、よりよくしようとする姿がある。 * 友達がバトンを受け取りやすい渡し方や、スムーズに走り始められる受け取り方を考え、チームで走っていることを意識して取り組む姿がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども同士でルールについて主張し合う姿に「<u>どういうルールだったかな</u>」と問いかけるなど、<u>子どもたち自身で確認ができるように関わる。</u> ● <u>ルールがあることの必要性を感じられるようにする。</u> ● <u>子どもたちが考え、気付くことを大切にし、話し合いを見守る。</u> ● <u>必要に応じて、子ども同士の話し合いに加わり、子どもたちが納得して、次に向かえるように関わる。</u> 	道徳性・規範意識の芽生え 言葉による伝え合い 健康な心と体 協同性 【教科等とのつながり】 「道徳」「国語」「体育」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

幼児期に、ルールのある遊びを通して友達との意見の相違に対して葛藤することや、自分たちなりに解決することを経験をしています。友達と協力することや気持ちに折り合いを付け気持ちを調整することや、自ら解決しようとする気持ちを育むことは、友達とつながりながら学校生活を送る基盤となっていきます。

時・数などにふれよう

これまでの経緯・子どもの姿

毎日、登園後に出席ノートにシールを貼っている。日付・曜日がカレンダーになっており、出席した日にシールを貼る。生活の中で、時計を使って時間を伝えたり、ものの数を数えたりする経験を通して、少しずつ時間や数を理解していく姿がある。



育てたい力

- 基本的な生活習慣を身に付け、自分で考えて行動する。(A①-②)
- 自分たちで生活の場を整え、1日の流れを意識し、見通しをもって意欲的に行動する。(A②-②)

児童期を見通した工夫

- 日常生活で使用するマークや写真には文字や数字を併記し、その関係性に気付いたり、文字や数字に興味や関心がもてるようにする。(C①-⑦)
- 一人ひとりの子どもにとって、より分かりやすく、見通しをもった生活が送れるように、視覚教材などの環境を整える。(C①-⑧)
- 時計、カレンダーなどを活用し、時間や日付の経過を意識して活動できるようにする。(C②-③)

活動の様子

●遊びや活動 ＊様子	●保育者の関わり ＊気付き	幼児期の終わりまでに育てほしい姿 (10の姿)と教科とのつながり
日々の生活の中で… ●カレンダーを見て、出席ノートの、 <u>今日は何日か確認をしてシールを貼る。</u> ＊今日は何日だろうか考える姿がある。 ●保育者の知らせを聞き、時計の針を確認する。 ＊時計の針が言われた数字になっているのを確認すると、「片付けの時間になった」と周囲に知らせる姿がある。 ●グループ活動では、 <u>グループの人数が分かり、人数分だけ必要なものを取りに行く。</u>	・カレンダーなどに「今日」の日付に赤い枠を付けるなど、子どもが見て分かるような工夫をする。 ・終わりの会など、「今日は～日だから、明日は～日だね」とみんなで確認をする。 ※ヒント集 P62を参照 「時計の針が”4”のところ、20分になったら片付けようね」など、 <u>時間の流れや時計を意識する機会を意図的につくる。</u> ・グループの友達の人数が分かり、人数分の必要なものを取っているかなど確認し、子どもたちが数を意識できるように関わり、見守る。 ・自分からやってみようとするように関わりを工夫する。 ＊自分で分かって行動したり、考えてやってみたことが、自分の力でできたと思う経験につながっている。	健康な心と体 思考力の芽生え 自立心 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 【教科等とのつながり】 「算数」「生活」

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

日常生活の中で、曜日や日付、時間、数などを意識できるよう環境や関わりを工夫しています。日常生活の中で、子どもは各々の理解に合わせて活用し、見通しをもって生活することを経験していきます。小学校生活においても、曜日、時間を意識し見通して生活していくことにつながります。

ドッジボール交流

これまでの経緯・子どもの姿

春にれんげ畑で幼稚園・保育所・小学校で交流を行い、一緒に遊んだり振り返りに参加したりしたことがある。また、小学校と園が隣接しているため、休み時間や体育の時間など、園庭から小学生の様子を見かける機会が多い。クラス活動や異年齢活動などで、ルールのある遊びやゲームをする経験をしてきた。ころがしドッジボールやなかあての経験はあるが、ドッジボールの経験はこれまでほとんどなかった子どもたちもいる。

育てたい力

- 友達と楽しく活動する中で、共通の目的に向かって、工夫したり、協力したりする。(A②-①)
- 小学校の先生の話に注目し、活動に見通しをもって参加する。
- 教えてもらったルールを守ろうとしたり、分からないことを自分から聞いてみようとする。



児童期を見通した工夫

- 好きなことに集中したり、没頭できる時間を保障しつつ集団で活動したり、話を聞く場面を取り入れたりしていく。(B②-③)
- 小学校を見学したり、小学校の先生の話の聞いたりする機会をもち、小学校入学への期待感と自覚を高める。(C②-⑦)
- 教えてもらったことや経験したことを生かして、自分たちで遊びを進めていけるようにする。
- 1年生と交流する機会をもち、やさしくしてもらった経験が小学校入学への安心感につながるようにする。

活動の様子

●遊びや活動 ＊様子	●保育者の関わり ＊気付き	幼児期の終わりまでに育ててほしい姿 (10の姿)と教科とのつながり
<ul style="list-style-type: none"> ●今日の活動について保育者の話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容を知る。 ・小学校の先生や1年生にルールを教 えてもらえることを知る。 ●小学校へ行く。 ●小学校の先生から、話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・ドッジボールのルールを知る。 ・分からないことは1年生に教えてもら う。 ●ドッジボールをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守ろうとする。 ・体を動かして楽しむ。 ＊知っていることでも、1年生にやさしく教 えてもらったことを喜んでいる様子が見 られた。 ●振り返りをする。 ●あいさつをして帰園する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●活動に期待や見通しをもつことがで きるように話をする。 ・小学校では、できるだけ学校の先生 や1年生と関わりをもてるように、ね らいや目的を伝えておく。 ・いろいろなルールがあることを知ら せる。 ・ルールについて分かっていない子ど もや不安な様子が見られる子ども について、保幼小の職員同士で情報 共有する。 ・分からないことを自分から1年生に 聞けるように言葉がけをしたり見 守ったりする。 ＊活動後、クラスでもドッジボールをす る機会が増えた。 	<p>健康な心と体</p> <p>社会生活との関わり</p> <p>道徳性・規範意識の芽生え</p> <p>言葉による伝え合い</p> <p>【教科等とのつながり】 「体育」「道徳」「国語」</p>

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わり工夫など

接続につながる幼児期の育ちや経験のポイント

小学校の先生や小学生に親しみをもち、小学校を身近に感じながら、体を十分に動かして遊ぶことを楽しみます。小学生をモデルにドッジボールの楽しさを知り、分からないことを尋ねやさしく教えてもらうなどの経験は、小学生への憧れや自分たちでもやってみようとする意欲につながります。